



1\_協定を結び固い握手を交わす左から北宇和アマ無線クラブ程内哲雄会長、甲岡町長、鬼北町社会福祉協議会井芝千章会長2\_それぞれ協定書に押印3\_防災センターに備え付けてある無線設備。無線クラブメンバーからの連絡が入るようになっている4\_総合福祉センター。日吉中央集会所とともに福祉避難所として活用する

### 《災害時応援協定調印式》

## 災害時の態勢整備着々と町、アマ無線、社会福祉協議会が協定

大規模災害時に備えて町は8日、「北宇和アマ無線クラブ(程内哲雄会長、会員12人)」「鬼北町社会福祉協議会(井芝千章会長)」の両団体と協定を結びました。

内容は、災害が起こった時の災害情報の収集・伝達、避難援護活動や避難施設の提供などを町からの要請を受け共同で行うというものです。

「北宇和アマ無線クラブ」は被災状況や行方不明者の捜索などの際に、無線を活用し町と情報を共有するなど、捜索活動を円滑にすることが大きな役割。

大規模災害が発生すると、公衆の通信網やその他の手段による通信連絡を利用することは困難、または不能になることが予測されます。アマ無線はそのような非常時でも問題なく使用することができるので、活躍が期待されます。また、アマ無線の大きなメリットとしてあげられるのが、情報の収集と伝達を行えるということです。公衆の通

信手段が使えない状況で、要救助者の数や災害箇所などの情報をいち早く町に伝える。そしてその情報を基に町は必要な対策を講じる。このように、迅速かつ正確な対応が取りやすくなります。

一方、社会福祉協議会は、普段社会福祉施設として活用している「総合福祉センター」と「日吉中央集会所」を、災害発生時に福祉避難所として設置することになります。主に、在宅の要援護者が対象で、避難収容人数は、総合福祉センターが約50人。日吉中央集会所が約20人と設定されています。

福祉施設としての機能や職員のノウハウを最大限に生かした活動が期待されます。いずれにしても、災害は誰もが望むものではありません。起こらないことがベストですが、いつやってくるかわからない自然の脅威。それが、一番の恐怖なのです。今回の協定は、その脅威に対する「備え」の一つとなります。